

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
 静岡市清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

CONTENTS

- 平成26年度清水港湾事務所事業概要 ○「清水港・みなと色彩計画」色彩セミナー
- 地元高校生が清水港を学習 ○シリーズ「エアガール 東京ー下田ー清水定期航空路」①(全4回)

平成26年度 清水港湾事務所事業概要

清水港湾事務所では、港湾整備等を通じて輸送コスト削減や大規模災害における早期復旧など信頼性の高いインフラサービスを提供し、産業の立地環境を強化することで、我が国有数のものづくり地域である静岡県において、“県内立地産業の元気”並びに“日本経済の元気”を支えます。

清水港

【新興津地区国際海上コンテナターミナル整備事業】

コンテナ貨物の需要増加や世界的なコンテナ船の大型化などに対応し、産業立地環境の改善を通じて国際競争力の強化を図るため、岸壁(水深15m)、泊地(水深15m)、防波堤の整備を進めています。なお、岸壁及び泊地は平成25年5月25日に供用を開始しています。

今年度は、新興津防波堤の延伸工事を進めます。

【港湾施設の老朽化対策】

老朽化した施設の点検及び改良を実施します。

今年度は、興津地区岸壁(水深10m)、富士見地区岸壁(水深14m)(水深9m)の調査・設計等を進めます

【大規模地震・津波への対応力強化】

大規模地震発生時の津波により防波堤が倒壊し、その後の荷役活動への支障が無いように「粘り強い構造」※への改良を行っています。

今年度は、外港防波堤、新興津防波堤の改良工事を進めます。



田子の浦港

【中央地区国際物流ターミナル整備事業】

田子の浦港における多くの港湾施設は、老朽化が進み、船舶の大型にも対応できておらず、他港からの陸送が発生するなど、非効率な輸送形態を強いられています。

このような背景から、船舶の大型化への対応並びに大規模地震発生時の緊急物資輸送のための岸壁(水深12m)及び航路・泊地(水深12m)の整備を進めています。

このうち、耐震強化岸壁については、平成23年2月より供用を開始しており、今年度は、航路・泊地の浚渫(しゅんせつ)工事を進めます。



御前崎港

【防波堤整備事業】

御前崎港女岩地区では、すでに国際物流ターミナルが供用しており、コンテナ船、自動車運搬船やRORO船が利用しています。

より一層の利便性や安全性確保のため、港内の静穏度を高める防波堤（東）の整備を進めています。

今年度は、防波堤（東）の延伸工を進めます。

【大規模地震・津波への対応力強化】

大規模地震発生時の津波により防波堤が倒壊し、その後の荷役活動への支障が無いように「粘り強い構造」※への改良を行っています。

今年度は、防波堤（西）及び防波堤（東）の改良工を進めます。



下田港

【防波堤整備事業】

下田港は、周辺海域が複雑な地形と厳しい海象条件のため、海難事故が多発する海域であり、古くから海の避難場所（避難港）として利用されています。

そのため、避難港としての船舶の安全な避泊水域を確保するための防波堤の整備を進めています。

現在、進めている防波堤整備は、避難船舶を守るためだけでなく、大規模地震による津波から背後の住民や財産を守る“津波低減効果”も期待されています。

今年度は、防波堤（西）先端部の補強工を進めます。



※キーワード＜粘り強い構造＞

東日本大震災では、津波により防波堤が倒壊し、その後長期にわたり港湾荷役に支障をきたしました。

静岡県でも大規模地震に伴う大きな津波が発生することが想定されています。

中部地方整備局では、100年から150年周期で発生している東海地震など、比較的発生頻度が高い津波を超える大きさの津波が発生した場合でも、防波堤の効果が粘り強く発揮出来る防波堤の構造に改良を進めています。

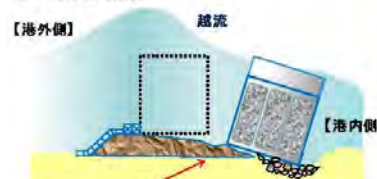
通常の防波堤 (津波による被災のメカニズム)

1) 津波外力によりケーソンが滑動し、越流により基礎マウンド(港内側)が洗掘



【ケーソンの滑動】 【基礎マウンドの洗掘】

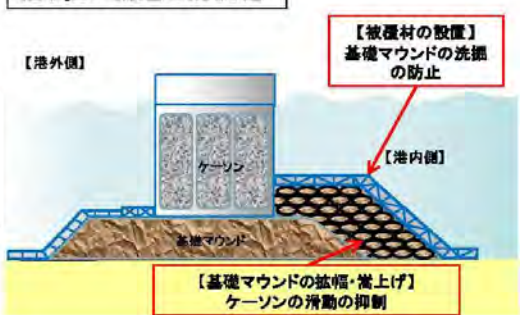
2) 基礎マウンドの洗掘がさらに進み、ケーソンが滑落



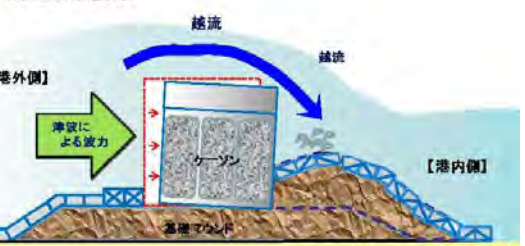
【基礎マウンドの洗掘】 【ケーソンの滑落】

対策の実施 (粘り強い構造)

粘り強い構造の防波堤



【津波の来襲時】



津波で押されてもケーソンは基礎マウンドにめり込むが、マウンドからの滑落は生じない

「清水港・みなと色彩計画」色彩セミナー

去る平成26年1月30日に静岡市清水区の清水マリビルで「清水港・みなと色彩計画」色彩セミナーが開催されました。

当日は、企業担当者や市民など約80人が参加し、清水港を世界に誇る魅力的な空間へと推進する色彩計画の施策について意見交換も行いました。

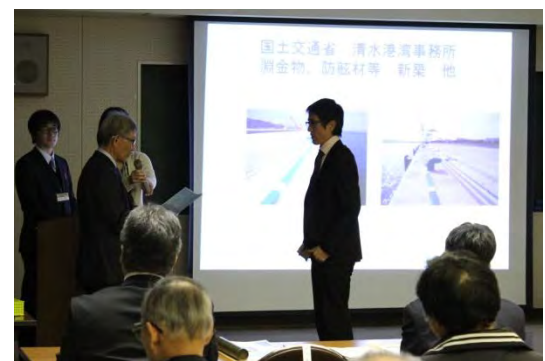
この「清水港・みなと色彩計画」は、自然景観に調和するよう周辺の色彩に工夫を加え、美しく、人に優しく、楽しく、機能的で活気や潤いのある港づくりをめざして1992年から進めている取り組みです。また、「清水港・みなと色彩計画推進協議会」（会長・望月薫アオキトランス（株）代表取締役会長）を組織し、市民・地元企業・学識経験者・行政など官民学一体となって進めているもので、清水港湾事務所もこれに参画しています。

セミナーでは、同計画アドバイザー会議座長の東恵子東海大学海洋学部教授が計画の基本方針や目標などについて分かりやすく説明されました。また、東教授は施工事例を紹介しながら、「清水港を富士山が一番美しく見える港にしていきたい」と呼びかけました。

その後、平成24年度の協力企業・団体への感謝状授与が行われ、当事務所も「新興津国際海上コンテナターミナル」での取り組みに対し表彰されました。



東恵子東海大学海洋学部教授のご講演



清水港湾事務所の表彰の様子

地元高校生が清水港を学習！

平成26年1月28日（火）『静岡県立農業高校 環境科学科（25名）』の依頼を受け、清水港コンテナターミナルの見学会を行いました。

当日は、清水コンテナターミナル（株）屋上にて、広大な駿河湾を背景にそびえ立つガントリークレーンやコンテナなどの特徴、働き、清水港の重要性、清水港みなと色彩計画などについて説明しました。

今回、高校生への説明であったことから、アジアなど世界の経済情勢や日本の産業構造の変化などを織り交ぜた説明資料を用意しました。大人でも少し難しいと思われる内容でしたが、資料を見ながら熱心にメモを取る生徒さんの姿が印象的でした。

次に、新興津コンテナターミナルへ移動し、実際にガントリークレーンで大型コンテナ船へコンテナを乗せている様子を目の当たりにすると、「でかい！すごい！！」との声があがっていました。その後、みなさん目を輝かせながらの質問も盛んに行われ大盛況の中で見学会を終えました。

これから日本を担っていくであろう若者たちの基礎的な知識の中に、清水港での学習が少しでも役立ち、より豊かな未来構想へ繋がればとの思いも込め、今後も見学内容の充実を図っていきたいと思います。



熱心にメモを取る静岡県立農業高校のみなさん



大型コンテナ船と荷役状況を見学する生徒達

シリーズ「エア・ガール 東京ー下田ー清水定期航空路」① (全4回)

※ このシリーズは県内で知る人が少ない「東京ー下田ー清水定期航空路」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるものです。

昭和6年4月1日正午頃、1機の水上飛行機が清水港に着水しました。

これが、「東京ー下田ー清水」を結ぶ定期航空便の記念すべき第一便でした。愛知時計株式会社が国産旅客機として製造した「AB-1水上旅客機」にパイロット2名と乗客4名と郵便貨物を搭載し、週3便東京蒲田（現羽田空港付近）より下田を経由して清水を往復する定期航空路で、東京航空輸送社が運営していました。

当時、すでに東京ー大阪ー福岡は毎日航空路で結ばれており、東京ー下田ー清水という航空路は、週3便のローカル路線であり、取り立てて珍しいものではありませんでした。ただ、日本初の「エア・ガール」の存在を除いては・・・。

「エア・ガール」という言葉は、現在の女性キャビンクルーの呼び名であり、東京航空輸送社社長相羽有（あいはたもつ）氏が当時流行っていた「ウエイトレス・ガール」「エレベーター・ガール」など女性の職業に「ガール」を付ける事をヒントに名付けたとされています。世界的には、1年前の昭和5（1930）年、アメリカのボーイング航空が女性のキャビンクルーを採用しています。ただ、現在のフライトのように必ずしも快適なフライトではなかったようで、体調を崩した乗客のケアを優先に考え、「看護の資格」を持つ事が採用の条件になっていました。

東京ー下田間を小型水上飛行機で運航していた東京航空輸送社の相羽氏の耳にも、この情報は入っていたようで、当時まだまだ危険で冒険的な乗り物として認識されていた飛行機に、あえて女性をクルーとして採用し、同

乗させる事によって、空の旅の安全性を示そうと考えたようです。東京航空輸送社が提唱した日本初の女性キャビンクルー「エア・ガール」の最大の特徴は、乗客へのおもてなしに重点が置かれた点です。窓から見える景色の案内や珈琲や紅茶、サンドイッチなどをサービスする事を目的としていました。現在のキャビンクルーと比較してもあまり変わらない、この日本最初のフライトサービスは、世界的にも先進的な試みであったようです。

昭和6年1月、この「エア・ガール」を募集する。「エア・ガールを求む。東京、下田間の定期航空旅客水上機に登場し、風景の説明や珈琲のサービスをするもの、容姿端麗なる方を求む。希望の方は2月5日午後2時、芝桜田本郷町飛行館4階へ」というものでした。（次回へ続く）



昭和6年3月29日 東京ー清水 定期航空便 試験飛行
東京蒲田付近にて撮影、翼の上の女性がエア・ガール。
小泉通信大臣（写真下段左端）とその令嬢（写真下段左より2人目）が搭乗。機体は愛知AB-1。

筆者：山口博史（やまぐちひろふみ）

昭和43年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。

下田市取材中に「東京ー下田ー清水」定期航空路に関わった旅館に出会い、10年以上各地で調査している。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

野村・古閑Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp